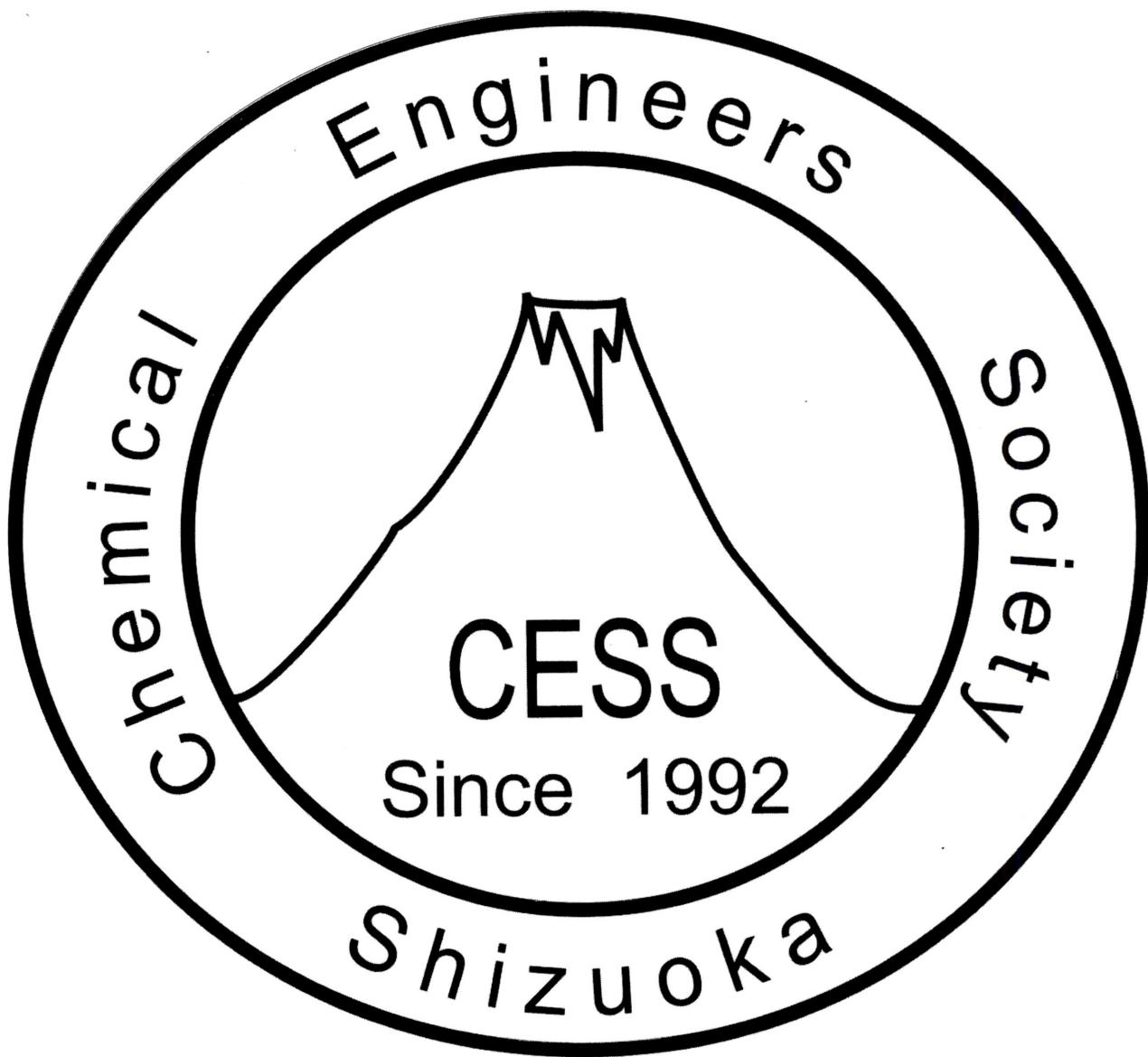


静岡化学工学懇話会

会報

第14号



目 次

ご挨拶 静岡化学工学懇話会 会長 蓮実文彦	1
平成 17 年度事業報告	2
平成 17 年度総会・見学会・第 30 回静岡コロキウム 「二輪車用燃料電池の開発」及び「家庭用燃料電池の開発」顛末記	4
第 13 回静岡フォーラム 「バイオマス利用の新展開—本格化する具体的な取り組み—」顛末記	6
第 14 回企業技術交流会顛末記	8
第 31 回静岡コロキウム 「機能性プラスチック開発の現状」顛末記	10
故野田勝嗣先生を悼む	12
静岡化学工学懇話会ホームページ紹介	13
平成 18 年度事業計画	14
会員企業ルポ	16
会員名簿（平成 18 年 5 月 17 日現在）	18
編集後記	24
(付：入会のご案内、入会申込書)	

ご挨拶



静岡化学工学懇話会

会長（平成18、19年度） 蓮実文彦

本懇話会主催の行事に時折参加させて頂く折々、いつも強い刺激を頂くと同時に、志を同じくするお仲間に加えて頂いている悦びを感じておりました。同時に、このような懇話会を企画、主催して下さっている企業の研究者、技術者の方々や静岡大学の先生方のご尽力に頭が下がる想いでおりました。そのような私が、この度、本懇話会の会長という大役をお引き受けすることとなってしまいました。静岡県東部から、それも学校から会長を出す順番とのことで、私がお受けすることとなりました。本懇話会から、利益だけを得ていた者の責任として、お役に立たせて頂く番と決断した次第です。浅学、非力の者ですが、皆様が精魂傾けられ育てられた本懇話会の名を汚さぬよう職責を勤めさせて頂こうと考えております。幸い、同じく東部で、長年本懇話会の発展に尽力された飯塚副会長はじめ、強力な幹事の方々の応援が頂けるとのことで意を決した次第です。

本懇話会は今年で設立14年目となります。この間、化学工学の新たな発展の可能性を探るべく、先進的な研究や技術開発に取り組まれている研究者、技術者を講師に迎えての「静岡コロキウム」や「静岡フォーラム」、同様に最先端の技術で生産の現場を開している企業を相互に訪問しあう「企業技術交流会」など、常に新鮮で技術者魂に火をつける企画を静岡独自に活発に展開してきました。これらの事業は、得がたい学びの場であると同時に、異業種の方々が集う貴重な交流の場となっております。私も専門とする分野は、応用微生物、酵素化学といった分野であり、単位操作とは縁遠いのですが、本懇話会からは、学校では得られない企業化プロセスにおける諸課題を勉強させて頂いており、貴重な機会となっております。これも、本懇話会の懐の深さを示す一面であると同時に、化学工学の新展開をめざされている本懇話会に集う研究者、技術者の志の表れではないかと存じます。

本年度も5月に開催されます「静岡コロキウム」から始まります。新年度の新たな出発も上述した静岡化学工学懇話会を維持・発展させてこられた会員諸氏のご意思を繋ぐ活動としてゆく所存です。最後に、皆様のますますのご発展、ご活躍を祈念いたしますとともに、本懇話会への一層のご支援をお願い申し上げます。

平成 17 年度事業報告

主催行事：

(1) 第一回役員会、総会、見学会

日 時：平成 17 年 5 月 17 日（火）

会 場：ヤマハ発動機（株） 本社 コミュニケーションプラザ

見学会：ヤマハ発動機（株） 本社 コミュニケーションプラザ及び二輪組み立て工程

参加者数：38 名

(2) 第 30 回静岡コロキウム：「燃料電池開発の現状」

日 時：平成 17 年 5 月 17 日（火）

会 場：ヤマハ発動機（株） 本社 コミュニケーションプラザ 3 階 C-309 B, C

講演件数：2 件

（「二輪車用燃料電池の開発」ヤマハ発動機（株）研究開発センター安達修平氏 他 1 件）

参加者数：38 名

(3) 第 13 回静岡フォーラム「バイオマス利用の新展開一本格化する具体的な取り組みー」

日 時：平成 17 年 10 月 28 日（金）

会 場：ブケ東海（静岡）4 階

講演件数：4 件

（「バイオマスマウン構想」東京大学生産技術研究所教授 迫田章義氏 他 3 件）

参加者数：92 名

(4) 第 14 回企業技術交流会：「お酒の話」

日 時：平成 17 年 12 月 14 日（水）

会 場：焼津市鰯節会館

見 学：青島酒造（株）、焼津水産化学工業（株）

講演件数：2 件

（「本当においしいお酒は…」（株）RIVERSON 代表取締役 河村傳兵衛氏 他 1 件）

参加者数：34 名

(5) 第二回役員会

日 時：平成 18 年 3 月 7 日（火）

会 場：ポリプラスチックス（株） テクニカルサービスセンター 4 階会議室

参加者数：15 名

(6) 第 31 回静岡コロキウム：「機能性プラスチック開発の現状」

日 時：平成 18 年 3 月 7 日（火）

会 場：ポリプラスチックス（株）

見 学：ポリプラスチックス（株） テクニカルサービスセンター 4 階会議室

講演件数：3 件

（「高分子材料の表面機能化にプラズマ処理技術は有効か？」

静岡大学工学部教授 稲垣訓宏氏 他 2 件）

参加者数：40 名

共催・後援行事：

- (1) 第8回「リフレッシュ理科教室」
主 催：応用物理学会東海支部
日 時：平成17年6月3日（金）、4日（土）
会 場：浜松科学館
参加者：約200名
- (2) 第83回講演見学会：「愛知万博バックヤードツアーエネルギーコース」
主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成17年6月28日（火）
会 場：愛知万博長久手会場内（愛知郡長久手町）
参加者：29名
- (3) 2005年国際博覧会記念 風力・再生型自然エネルギー・燃料電池国際会議&見本展示
主 催：EXPWCWRF
日 時：6月7日（火）～9日（木）
会 場：アクトシティ浜松（浜松市）
参加者：国際会議3887名、展示7032名
- (4) 第29回基礎化学工学演習講座
主 催：化学工学会東海支部
日 時：第1コース 平成17年6月22日（水）～6月24日（金）
第2コース 平成17年6月29日（水）～7月1日（金）
会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）
参加者：69名
- (5) 第15回電極材料研究会
主 催：電気化学会電解科学技術委員会
日 時：平成17年7月29日（金）
会 場：静岡大学浜松キャンパス 図書館視聴覚室
参加者：33名
- (6) 第84回講演見学会：「静岡地区の元気な中小企業の技術・ビジネス戦略」
主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成17年8月2日（火）
会 場：ウシオケミックス（株）（掛川市）、サンエムパッケージ（株）（島田市）
参加者：21名
- (7) 中部化学関係学協会支部連合秋季大会
特別討論会1件「医用材料・医用化学工学」
主 催：中部化学関係学協会支部連合（中化連）協議会
日 時：平成17年9月23日（金）～24日（土）
会 場：グランシップ（静岡市）
参加者：30名
- (8) 第39回化学工学の進歩講習会：「粒子・流体系フロンティア分離技術」
主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成17年10月25日（火）～26日（水）
会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）
参加者：86名

平成17年度総会・見学会

第30回静岡コロキウム

「二輪車用燃料電池の開発」及び「家庭用燃料電池の開発」顛末記

平成17年度総会は、5月17日（火）に磐田市のヤマハ発動機株式会社 コミュニケーションプラザを会場とし、40名の参加者を得て開催されました。総会に先立ち12時から役員会が開催され、引き続き13時30分から総会が開催されました。本総会では脇屋会長の挨拶に始まり、平成16年度事業報告及び会計報告、平成17年度事業計画及び予算について審議され承認されました。

14時から第30回 静岡コロキウムが「燃料電池の開発」をテーマとして開催されました。始めに弊社ヤマハ発動機（株）研究開発センター コア技術研究室ビークルG 安達 修平G.Lより「二輪車用燃料電池の開発」と題して、公道での走行テストを実施しているFC06の開発の経緯、固体高分子型燃料電池と直接メタノール型燃料電池（DMFC）の車体重量の違いによる出力の違いやヤマハDMFCシステムの概要、実用化への課題と取り組み状況を紹介いたしました。また自動車用燃料電池では水素燃料の供給方法、インフラ整備が非常に重要であること、今回のヤマハDMFCではメタノール水溶液の小さな容器をセットするだけという取り扱いの良さに特色がある等の説明がありました。

次に静岡ガス（株）総合技術研究所の曾根眞人所長より「家庭用燃料電池の開発」と題して、都市ガスを燃料に使用した固体高分子型家庭用燃料電池開発について講演いただきました。セルスタックや改質装置の構造およびシステム、国家プロジェクトでの実証研究の成果等わかりやすく説明いただきました。金属セパレーターの採用によりセルスタックを薄く小型化を達成した改良のお話や5kWのシステムの開発状況をうかがいますと近い将来必ず私達の身近な商品になることを感じずにはいられませんでした。

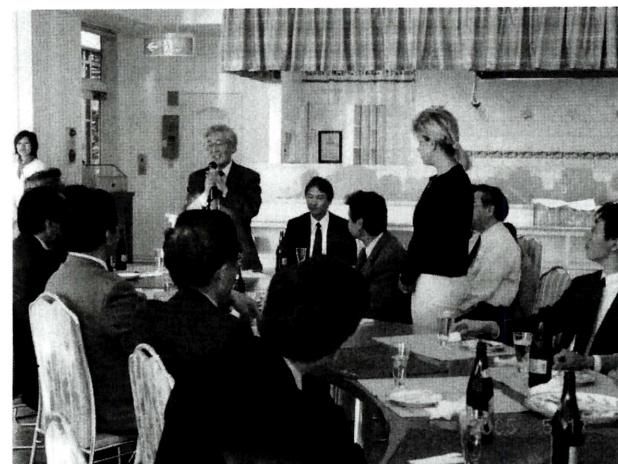
くしくも本年2月に京都議定書が発効され、地球温暖化防止の必要性が益々高まる中、静岡コロキウムの講演にて、静岡県の企業による「静」と「動」の燃料電池の開発の講演が行われたのは意味深い事であり、温暖化防止の救世主と言われるこの技術を参加いただいた企業の皆様の協力を得ながら是非成功させていただきたいと感じました。

休憩を挟み弊社創業以来の製品や技術、活動を一堂に集め展示してあるコミュニケーションプラザの見学と大型2輪の組み立て工場の見学を2グループに分かれ行われました。コミュニケーションプラザでは世界の工場で商品化されている2輪、船外機、スマートモービル、発電機、モーターボート、マリンジェット、4輪バギー車、自動車エンジン、プロペラ、電動自転車、浄水器、ロボット、電動車椅子、除雪機等々の展示されており、エンジン関係からバイオ事業までの商品の幅の広さに驚いていらっしゃいました。また400cc～1600ccの国内および輸出用大型モーターサイクルの組み立て、検査、梱包ラインの見学をしていただきました。

見学会終了後、場所を変え「クリプトン 磐田」にて32名の出席者にて懇親会が開催されました。飯塚副会長の乾杯のご挨拶にはじまり、講師の曾根様、安達様、先生方、各企業の皆様からご挨拶をいただきあつという間に2時間が経ちお開きとなりました。

最後に参加頂きました皆様、講演をいただきました企業の皆様、懇話会幹事の先生の皆様には開催にあたりご協力いただき心から厚く御礼申し上げます。

（ヤマハ発動機株式会社 環境推進G.R 鈴木恒司 記）



第13回静岡フォーラム 「バイオマス利用の新展開— 本格化する具体的な取り組み—」顛末記

平成17年10月28日（金）、静岡市のブケ東海静岡にて、第13回静岡フォーラムが開催されました。今回のテーマは、「バイオマス利用の新展開—本格化する具体的な取り組み—」でありました。本フォーラムは、化学工学会バイオ部会の第3回バイオマスセミナーおよび化学工学会東海支部の第65回研究談話会でもありました。参加者数は92名（うち学生6名）と大変多く、バイオマスに対する関心の高さを示すものがありました。

最初に東京大学生産技術研究所教授の迫田章義氏に「バイオマстаун構想」についてご講演していただきました。バイオマス由来の製品を地域需要に対してどの程度の量が生産できるかなどを定量的に予測し、バイオマстаунを構築していくときの判断材料の一つとなるシミュレーションについて説明されました。その後、このシミュレータを用いて種々の検討を行った千葉県山田町におけるバイオマстаун実証試験の状況について説明されました。

次に、「静岡県バイオマス総合利活用マスタートップランと最近の取組事例について」と題して静岡県農業水産部企画調整室主査の小泉鏡子氏にご講演していただきました。静岡県内のバイオマスの現状や静岡県としての利活用の基本方向と推進方策、東名高速道路や国道1号線などの東西軸を基軸に南北の流通システムを結節した静岡県バイオマスロードについて、など静岡県の取り組みについての内容でした。

休憩の後、国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター室長の井上雄三氏に「食品廃棄物からの乳酸と飼料の回収利用」についてご講演していただきました。廃棄物系バイオマスの一種である生ゴミを対象とした資源化技術の多様化を目的として、低コスト・省エネルギー・低テクノロジーの乳酸発酵技術の開発についての研究成果について紹介されました。より高い殺菌技術の確立、ポリ乳酸加工を目的とした回収粗乳酸の精製、プラント運転におけるエネルギー消費量・ランニングコストの把握など、実用化に向けて解決しなければならない課題についても紹介されました。

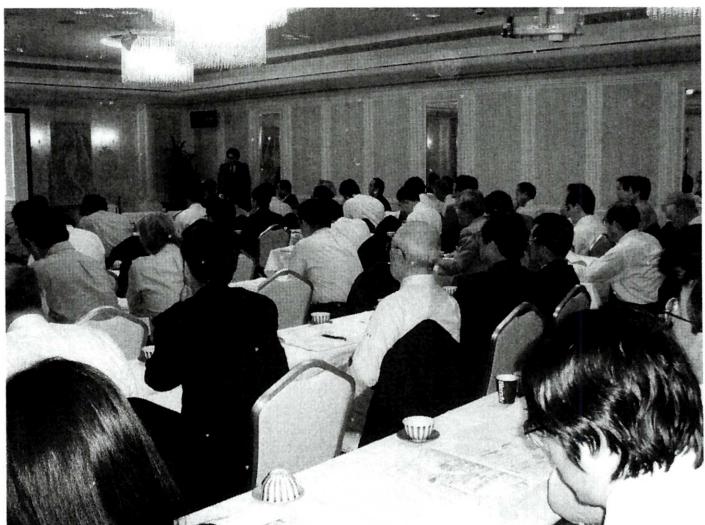
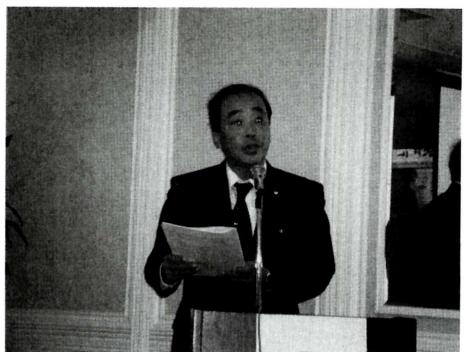
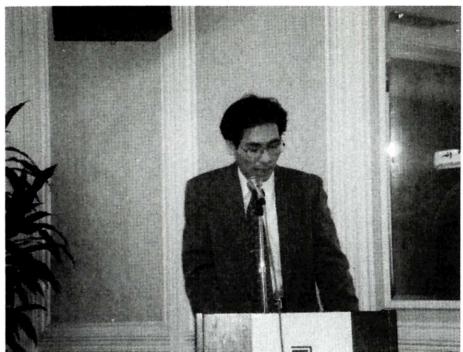
本フォーラム最後の講演は、静岡ガス株式会社総合技術研究所取締役研究所長の曾根眞人氏による「バイオガス、および天然ガスを利用した燃料電池システム」でありました。給食センターから排出される食品残渣を用いてメタン発酵を行い、生成するバイオガスを天然ガスと併用して給湯システムや燃料電池発電システムに利用し、温水や電力を給食センターに供給するという自己完結型廃棄物のゼロエミッションシステムの構築についてお話をいただきました。

総合討論でも、多くの質問があり、活発な討論が行われました。また、この後の懇親会でも情報交換が行われていました。バイオマスを具体的に利用していく取り組みへの関心が非常に高いことがわかりました。

本フォーラムが多くの人々や企業がバイオマスの利用に取り組むきっかけになれば、大変喜ばしいことだと思います。

最後に、ご講演を快く引き受けさせていただいた講演者の方々に心よりお礼を申し上げます。また、フォーラム開催にあたり、多くのご支援、ご協力をいただいた静岡化学工学懇話会、化学工学会バイオ部会、化学工学会東海支部の各幹事の方々に深く感謝いたします。

（静岡大学工学部 前澤昭礼 記）



第14回企業技術交流会顛末記

12月14日（水）、平成17年度『第14回企業技術交流会』が「お酒にからむお話し」をテーマに34名の参加者を得て焼津市鰐節会館を講演会場として開催されました。

脇屋会長のご挨拶の後、株式会社 RIVERSON 代表取締役 河村傳兵衛様の「本当においしいお酒は…」と題するご講演が始まりました。河村先生は静岡県工業技術センターにて酒造りの研究に励まれ、静岡酵母の生みの親として県内の酒業界に大変貢献された方です。酒処として余り有名でなかった静岡の地酒が、全国的にも評判を得るほどの旨さになったのは河村先生のご尽力の賜物と言えます。ご講演では、日本酒の生産量が毎年5%減少している中で、「本当に美味しいければ、皆にいつまでも愛飲して貰える」との信念のもとに、化学工学的（？）に製造プロセスのご説明を頂きました。僅かな微量成分の中に美味しさの秘密があり、科学では分析出来ない酒文化の奥の深さに感銘を受けました。

見学会は青島酒造株式会社、焼津水産化学工業株式会社の2社で行われました。2グループに分かれ、ジャンボタクシーに分乗して交互に回るという慌しいものでしたが、実際の物作りの現場を見る事が出来、大変有意義なものでした。

青島酒造株式会社は元禄年間より酒造りを始めた老舗で、5代目の青島専務様のお人柄が現れた丹精込めた酒造りが紹介されました。河村先生のご指導の下、静岡酵母、無農薬有機栽培された「山田錦」と大井川の伏流水とで造られた「喜久醉」は「フルーティな香り、爽やかな旨み、キレの良い喉ごし」で知られる静岡の地酒を代表する銘酒として有名です。青島専務様より「酒造りは生き物が相手なので、微妙な変化を五感全体で感じ取り、酒と寝食を共にして造らなければならない。中学生の頃、仕込みの時期になると河村先生は一晩中酒蔵に籠りっきりで、朝起きると酒蔵から河村先生が出て来られて一緒に朝食を摂ったのを良く覚えている」とのお話を伺った時、酒造りの難しさ、河村先生の酒造りに込められた思いを感じる事が出来、感動しました。

焼津水産化学工業株式会社は天然調味料、健康・機能食品等の製造販売をしている会社で、鰐節用の麹菌の共同開発を河村先生と行われているとのことです。魚加工業の廃液処理から始まり、廃棄物も分離精製すれば有効な資源になるとの見地より、魚の皮や蟹の甲羅からコラーゲンやキチン、キトサンを抽出したり、マグロから抗疲労物質アンセリンを、サメからはコンドロイチンをといった機能性素材を世に送り出している非常に先進的な開発志向の強い企業でした。

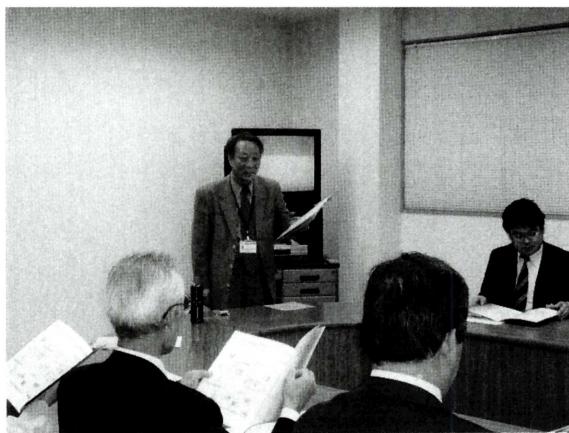
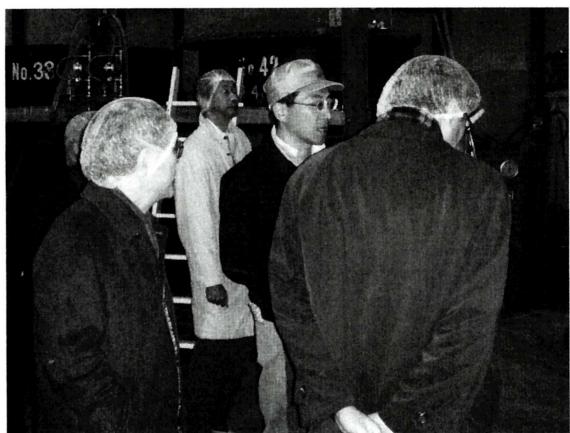
見学会から戻り、矢崎総業株式会社 飯塚部長による乾杯のご発声の後、弊社常勤監査役岩井の「酒との出会い」と題する講演を聞きながら懇親会が開催されました。

岩井の講演は、東海道五十三次が描かれた浮世絵の中で食に関する題材を調査し、そこで描かれた酒を探し、富士川上流の牧野酒造で幻の銘酒「山川志ろ酒」入手し、懇親会の席上で皆様に飲んで頂くという大変趣向に富んだものでした。酒呑み、んっ十年の執念と行動力を感じさせる本日のテーマにピッタリの講演でした。

懇親会では河村先生がその人生を掛けて造られた「傳兵衛」、青島酒造より頂戴した「喜久醉」、岩井が探し当てた「山川志ろ酒」の他、「磯自慢」、「初亀」、「志太泉」、「杉錦」、「花の舞」といった静岡を代表する地酒を楽しむことが出来ました。途中、静岡大学須藤先生（化学工学会東海支部長）、溝口先生のご挨拶を頂き、最後は日本軽金属株式会社の堀内部長の中締めで忘年会を兼ねた懇親会を終了致しました。

「お酒にからむお話し」、「人との出会い」、「丹精込めた物作り」、「食文化・酒文化」に触れる事が出来、無味乾燥な化学工学とは趣きを異にする、しかし、静岡化学工学懇話会の会員の心情には合った一日を送る事が出来ました。

（株式会社巴川製紙所 技術研究所 茂木克己 記）



第31回静岡コロキウム 「機能性プラスチック開発の現状」顛末記

富士山のお膝元、富士市宮島にあるポリプラスチックス（株）テクニカルサービスセンターにて、3月7日に第31回静岡コロキウムが開催され、各地から37名もの多くの参加者にお集まりいただいた。

まず、脇屋和紀会長による開会の挨拶の後、3件の講演を行った。

1件目は静岡大学教授 稲垣訓宏先生による「高分子材料の表面機能化にプラズマ処理技術は有効か？」というタイトルでご講演を頂いた。大変難しいプラズマ処理について、とてもわかりやすく語って頂いた。

2件目は三井化学（株）研究部長 福田 伸氏による「無機薄膜を形成したプラスチックフィルムのディスプレイ材料への応用－反射材料を中心にして－」というタイトルでご講演を頂いた。ディスプレイ材料に要求される課題、それを克服してきた経緯など多くの示唆に富んだお話を頂いた。ただ、多くの資料を用意頂いたにも関わらず、時間の関係ですべてを語って頂くことが出来なかったことが残念であった。

3件目は、開催地であるポリプラスチックス副本部長 飯山 誠氏による「ポリプラスチックスの研究開発動向」というタイトルでご講演を頂いた。社会のニーズを先取りする機能材料開発について熱く語って頂いた。

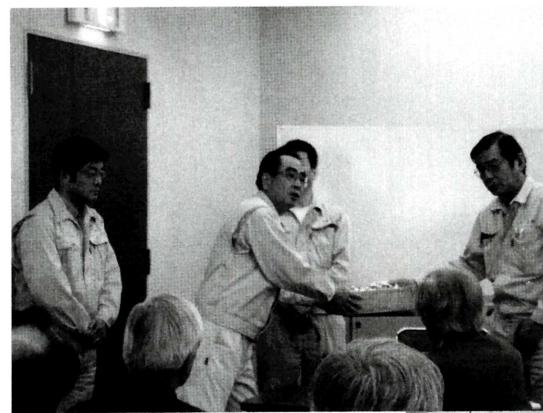
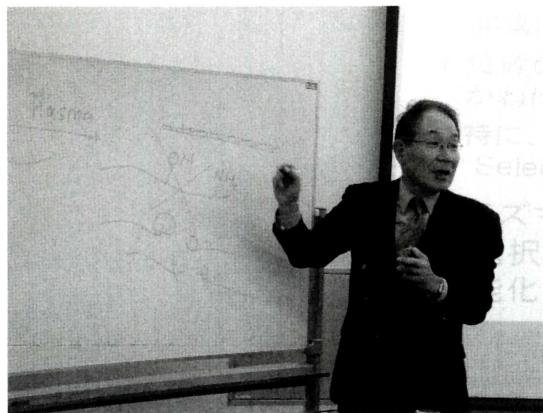
これら3件の講演の後、会場でもあるポリプラスチックス（株）テクニカルサービスセンターを5階すべて見学させて頂いた。整然と並ぶ材料試験機や射出成型器などをくまなく見せて頂いた。

見学会の後、バスなどに分乗してJR新富士駅近くの蕎麦屋「来富庵」にて懇親会を行った。講演会、見学会に参加されたほとんどすべての方に懇親会にも参加頂き、並んだテーブルの端から端がかすんで見えるのではと思えるほど、とても盛況であった。会長の挨拶の後、ご講演頂いた方々、次期役員など様々な方々のお言葉を頂きつつ、大変に盛り上がった。盛り上がりすぎて足が出てしまったことは伏せておく。

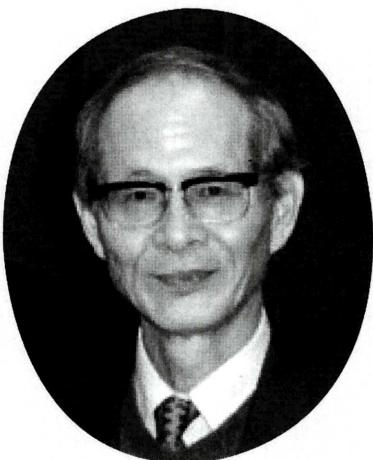
最後に、ご講演を頂いた3名の講演者の方々に御礼を申し上げます。また、会場の提供、見学会などを引き受けて頂いたポリプラスチックス（株）テクニカルサービスセンターの方々に心より感謝申し上げます。

(静岡大学工学部 武田和宏 記)





故野田勝嗣先生を悼む



野田勝嗣先生には、病氣ご療養中のところ平成17年11月17日にご逝去されました。

野田勝嗣先生は、昭和17年4月18日、和歌山県にお生れになり、昭和40年3月静岡大学工学部化学工学科をご卒業後、昭和42年3月静岡大学大学院を修了され、東京農工大学助手を経て昭和45年静岡大学工学部助手に採用され、平成6年に教授に昇任されました。

この間、先生は、化学工学の分野のうちで特に相平衡の測定と推算に関する研究に尽力され、特にアンモニアを主成分とし、炭化水素・水を含んだ2成分および3成分系の気液平衡・液液平衡・固液平衡および粘度の実測を行いました。また、推算方法については、正則溶液理論に局所モル分率の概念を応用した式が実測値をよく相關できることを示されました。さらにアンモニア、二酸化炭素について電解質を含む系や高圧条件下における系など、より複雑な系について気液固平衡データの実測と相關方法の確立を目指した研究をされました。その後、難流動性粒子の流動層（特に振動流動層）に関する研究や同じく流動層を用いた低温度・高速度乾燥方法に関する研究、佐鳴湖の浄化に関する研究など、幅広い研究活動をされました。

静岡大学工学部物質工学科において、長年にわたって熱力学や物理化学をはじめとして、分離工学や数値計算法などの講義や演習を担当されました。また、先生から直接、卒業論文、修士論文の指導を受けた卒業生は100名を超え、社会の第一線で活躍しております。

静岡化学工学懇話会におきましては、会の立上げ当初から幹事としてご尽力され、設立後3年目、4年目には庶務幹事を担当されるなど、当会の発展に多大の貢献をされました。

私は、6年前（平成12年4月）に静岡大学物質工学科に赴任し、先生の下で研究、教育活動を行ってきました。先生が入院されてからも、必ず復帰されると信じておりましたが、ついにかなわず残念でなりません。一緒に浜名湖に釣りに出掛けたり、研究室の飲み会をしたりしたことがついこのあいだのことのように思い出されます。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

（静岡大学工学部 立元雄治 記）

静岡化学工学懇話会ホームページのご紹介

静岡化学工学懇話会のホームページではコロキウム、フォーラム等の各種行事の告知のほか、会報のバックナンバーの閲覧、掲載新聞記事の紹介もおこなっております。是非ご覧ください。

URL <http://cheme.eng.shizuoka.ac.jp/~cess/index.html>

(H16年4月よりURLが変更されています。)

懇話会事務局専用メールアドレスも用意されています。各種行事へのご参加、懇話会事務局へのお問い合わせにご利用ください。

懇話会事務局E-mail cess@cheme.eng.shizuoka.ac.jp

リンクをご希望の法人会員の方、ホームページに関するご意見、ご要望や掲載新聞記事の情報など、ございましたら是非お知らせください。

静岡化学工学懇話会

Topics

<HP>アドレスを変更しました。ブックマークの変更をお願いします。
<http://cheme.eng.shizuoka.ac.jp/~cess/index.html>



静岡化学工学懇話会は

平成4年に静岡県地区での産官学の交流の促進と活性化を目的に設立されました。
化学分野の業種に限らず、機械、電気、材料、エネルギー、環境、食品、情報など広範囲の分野の交流を期待しています。

年間4~5回程度の講演会等を開催しております。是非ご参加ください。

ご挨拶
入金のご案内
法人会員一覧
会報
新聞記事Topics
リンク

講演会等のご案内

最終更新日 2006.5.1



(三保の松原より富士を望む)

#PDFファイルのご利用にはAcrobat Readerのプラグインが必要です [Get Acrobat Reader](#)

お問い合わせ

静岡化学工学懇話会事務局
〒432-8561静岡県浜松市城北3-5-1
静岡大学工学部物質工学科化学工学コース内
e-mail: cess@cheme.eng.shizuoka.ac.jp

<http://cheme.eng.shizuoka.ac.jp/~cess/index.html>

ホームページ画面

(会誌・広報担当 (H16~) 静岡大学 立元 雄治 記)

平成 18 年度事業計画

主催行事：

- (1) 第一回役員会、総会、見学会：(中部地区担当)
日 時：平成 18 年 5 月 26 日（金）
会 場：イハラケミカル工業（株）静岡工場 研究開発部会議室
見学会：同社 静岡工場 生産部
- (2) 第 32 回静岡コロキウム：(イハラケミカル工業（株）研究所所長 木村芳一氏担当)
「農薬開発の現状と今後（案）」
日 時：平成 18 年 5 月 26 日（金）
会 場：イハラケミカル工業（株）静岡工場 生産部会議室
講 演：静岡大学農学部 水圈生態部門長 教授 衛藤英男氏
「植物と昆虫の関係における最近の話題－ワサビを中心にして－」
イハラケミカル工業（株）取締役研究開発部長 木村芳一氏
「農薬開発とプロセス研究」
- (3) 第 14 回静岡フォーラム：(静岡大学 木村元彦先生担当)
「医療機器開発の未来（案）」
日 時：平成 18 年 9 ～ 10 月
会 場：浜松市
講演件数：4 件前後
- (4) 第 15 回企業技術交流会：(FDK（株） 基盤技術研究部部長 松尾良夫氏担当)
「機能性セラミックス開発の最先端（案）」
日 時：平成 18 年 12 月中旬
会 場：FDK（株）（鷺津市）
見学会：同社 湖西工場電池部門および豊田佐吉記念館
講 演：同社 基盤技術開発部 部長 松尾良夫氏、
「機能性セラミックス材料の開発現状（仮題）」他 1 件
- (5) 第 33 回静岡コロキウム：(エヌ・イー・ケムキャット（株）技術センター長 山田貞二氏担当)
「省資源を考慮した貴金属触媒の設計（案）」
日 時：平成 19 年 2 月中旬
会 場：エヌ・イー・ケムキャット（株）（沼津市）
見学会：同社 エンジン評価棟および分析棟
講 演：同社 自動車触媒製造部 田中 康氏、他 2 件

共催・後援行事：

(1) 第9回「リフレッシュ理科教室」

主催：応用物理学会東海支部

日時：平成18年6月3日（土）

会場：浜松科学館（浜松市）

(2) 第85回講演見学会「バイオプロセスによる生産と精製・・・醸造酢と医薬品」

主催：化学工学会東海支部

日時：平成18年7月7日（金）

会場：博物館「酢の里」（半田市）、ファイザー（株）名古屋工場（知多郡）

(3) 第30回基礎化学工学演習講座

主催：化学工学会東海支部

日時：第1コース 平成18年6月21日（水）～6月23日（金）

第2コース 平成18年6月28日（水）～6月30日（金）

会場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

(4) 第86回講演見学会

主催：化学工学会東海支部

日時：未定

会場：未定（豊橋市）

(5) 第40回化学工学の進歩講習会

主催：化学工学会東海支部

日時：平成18年11月1日（水）～2日（木）

会場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

会員企業ルポ

11th.

アイセロ化学株式会社

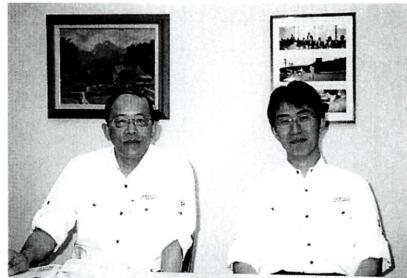
(面会者) マーケティング本部研究室

取締役 室長 塚本 善紀 氏
マネージャー 神村 基和 氏

会員企業を訪問し、事業活動の様子を取材させて戴きご紹介するコーナーです。今回は、アイセロ化学株式会社を訪ね事業概要や化学工学分野との関わりなどを取材させて戴きました。

1.事業概要は?

昭和8年（1933年）セロファンの加工、販売から始まり、セロファンの製造、ポリエチレンフィルムや容器、PVAフィルムの製造販売を行ってきました。セロファン製造時に発生する硫化水素ガスに係る公害問題から、昭和45年（1970年）セロファン工場を閉鎖するという辛い体験を活かし、今日の環境や自然に優しい企業活動、技術開発型体质に変身しました。



左から塚本氏、神村氏

当社では「包む」機能にこだわって商品づくりを行っています。特殊な市場向けですが、高いシェアをもつ様々な包装用資材を製造販売しています。

主な商品をご紹介しましょう。

1) 防錆フィルム「ボーセロン」

世界で初めて商品化した防錆フィルムで、包装と防錆を同時に可能としたものです。

2) 水溶性フィルム「ソルブロン」

水溶性のほか、耐薬品性・ガスバリアー性・帯電防止性などの機能を備えており、様々な分野で使用されています。

3) ラミネート用シーラントフィルム「スズロンL」

ラミネート用ポリエチレンフィルムで、各種バリアー材と貼り合わせ、多様なニーズに対応しています。

4) クリーン容器「クリーンボトル」

ブロー成形品で、容器からの不純物の溶出やパーティクルの増加がなく、ハイレベルなクリーン度を維持し内容物を守ります。

5) 感光性フィルム「アイセロダイレクトフィルム」

スクリーン製版用の感光性ダイレクトフィルムで、高い解像性を発揮します。

6) 大腸崩壊性カプセル「アイセロキトサンカプセル」

キトサンを主成分とした生分解性ハードカプセルで、医薬・食品・その他様々な用途が期待されます。

当社では、環境保護や資源保護の観点から、リサイクル化にも積極的に取り組んでいます。リサイクル商品として、「ごみ袋」や仕様済みストレッチフィルムを50%使用した「リサイクルストレッチE」などがあります。環境マネジメント室がこれらの開発に当たっています。

ボーセロンの用途例



キトサンカプセル



金属部品包装

(国内自動車部品用で
トップシェア)

鋼鋸コイルの自動包装

2. 化学工学の活用面は？

製造工程では、溶解（溶融押出）、濾過、液膜、乾燥、拡散などの技術が使われています。

また、当社では環境保全の面でISO14001の認証を取得しています。社内のロスや回収資材のリサイクル活用でごみ袋やリサイクルペレットなどを製造していますが、これらの工程でも化学工学技術は、随所で活用されています。

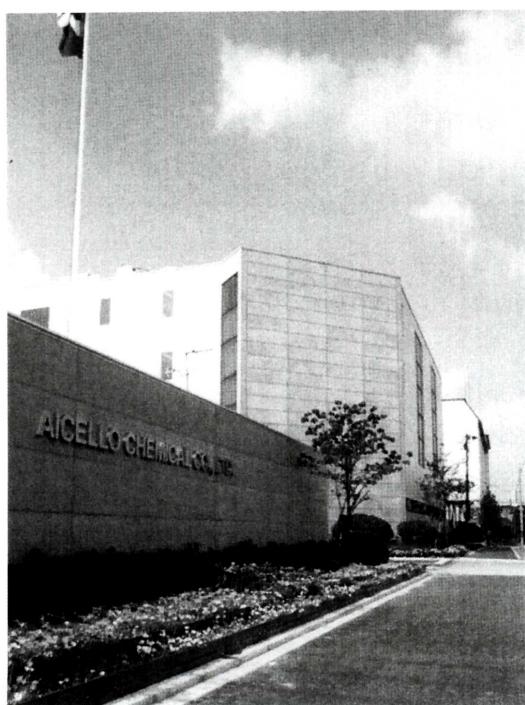
当社技術者には化学系、材料系をはじめ、機械系、電気系等、様々な出身者がいます。

3. 今後の取り組みは？

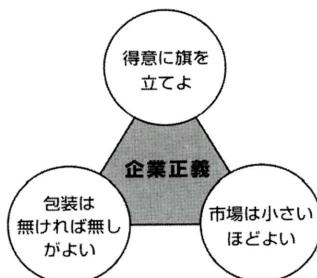
当社の得意を生かしてニッチな市場の開拓を目指しています。営業には、技術畠出身者が多く、ユーザーニーズ獲得のためセールスエンジニアとして活躍しています。

クリーンや省資源をキイワードに本当に世の中のためになる技術開発を通じて進化し続けていきたいと考えています。

アイセロの経営理念



アイセロ化学（株）本社・工場
(愛知県豊橋市石巻本町字越川45)



公害問題との決別のためとは言え、それまで同社の売上げの50%を占めた主力製品の製造をやめ、環境や自然との調和を目指したという、その決断に至る過程はどんなに厳しいものであったか想像に難くありません。そのことをバネに明確な経営理念のもと邁進された結果が現在の特徴ある企業へと育てたのでしょう。

ニッチ領域で世界一を目指しておられる由、更なるご発展をお祈り申し上げます。

リポーター；
幹事 (有) ホープ・マネジメント
河合文雄

————— <編集後記> ———

今年もコロキウム、静岡フォーラム、企業技術交流会といった多数の行事が開催され、静岡県の各分野の技術者、研究者にとって良き交流の場となっていることを実感するとともに、企画、遂行して下さった諸幹事の皆様に感謝しております。

引き続き、会誌・ホームページの担当をさせていただくこととなりました。会誌やホームページへのご要望等ございましたら、是非ともお知らせ下さい。この会がより良いものへと発展していくように努めていきましょう。

(静岡大学工学部 立元雄治 記)

静岡化学工学懇話会会報
〈第14号〉

発行／平成18年5月26日
静岡化学工学懇話会
会長 蓮実文彦
〒432-8561 浜松市城北3-5-1
静岡大学工学部物質工学科
化学工学コース内
TEL/FAX (053)476-0095
制作／静岡化学工学懇話会
(有)ホープ・マネジメント
TEL (053)430-4239
FAX (053)430-4238